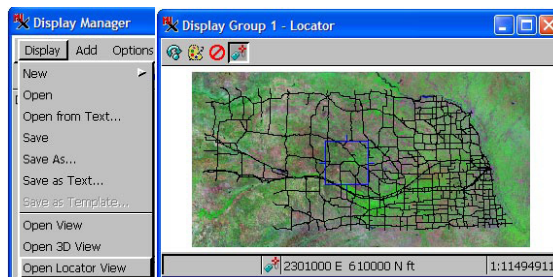
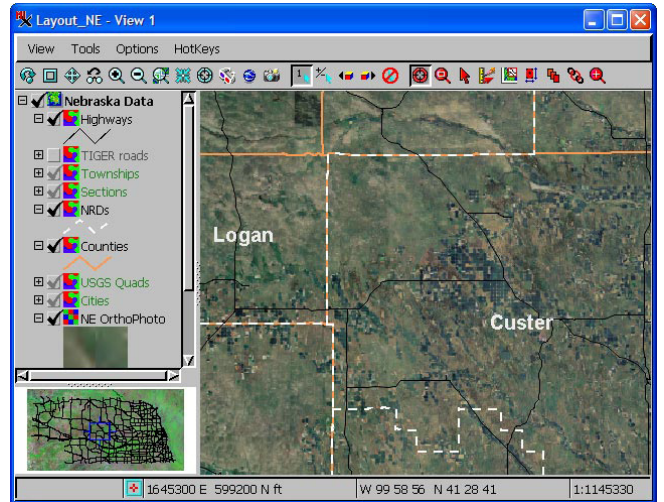


ロケータによるズームと位置のコントロール

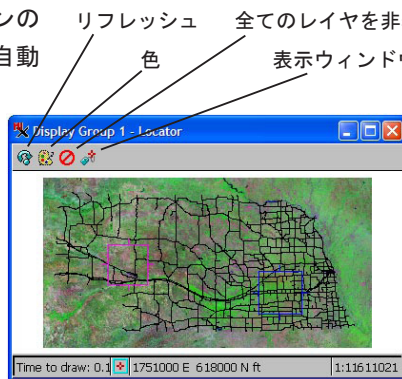
TNTmipsの空間表示処理では、ロケータを使うことによって全体の範囲の中で今どこにいるかが分かり、拡大した時表示するエリアを移動するのに便利です。ロケータは表示ウィンドウの左側の凡例の下に開いたり、別のウィンドウで開くことができます。凡例の下のロケータは、表示ウィンドウの「オプション」メニューから表示したり隠したりすることができます。「ロケータの表示 (Show Locator)」オプションは凡例を表示している場合にのみ使うことができます（「凡例の表示 (Show Legend)」オプションがオン）。ロケータや凡例の幅は、それらの右側の垂直バーによって調整することができ、凡例とロケータの比率はそれらを区切る水平バーによって調整することができます。

凡例の下に表示する以外に、あるいはその代わりとして、〈表示マネージャ〉ウィンドウの「表示」>「ロケータを開く」を使って、別ウィンドウにロケータを開くこともできます。ロケータの中のボックスを使って、表示する範囲を指定します。このボックスはサイズや位置を変えることができ、それに合わせて表示ウィンドウに表示する範囲を変えることができます。右クリックによってロケータウィンドウで指定した変更がメインの表示ウィンドウに反映します。ロケータの再描画も自動で行われます。

ロケータを開くと、ユーザが表示用に追加したレイヤの全範囲が表示されます。初めロケータには全レイヤが表示されますが、縮尺による表示コントロールが設定されていれば、縮尺によっては表示されないレイヤがあるかもしれません。メインの表示ウィンドウに表示しているレイヤとは独立に、ロケータに表示するレイヤも個別に表示 / 非表示を切り換えることができます。凡例とロケータウィンドウに表示されるレイヤは同じです。ロケータで個々のレイヤの表示 / 非表示を変更するには、凡例か表示マネージャのレイヤの「表示 / 非表示」チェックボックスの上で右クリックして下さい。表示マネージャのボックスの中のチェックが薄くなっている場合、そのレイヤがいくつかの表示ウィンドウまたはロケータで表示されていないか、もしくは縮尺コントロールによって表示されていないことを示しています。凡例のボックス中のチェックは、その表示ウィンドウでのレイヤの表示状態を反映しています。



表示マネージャから別ウィンドウのロケータを開きます。複数のレイアウトやグループがあってそれぞれ別々の表示ウィンドウに表示されている場合、アクティブな表示ウィンドウに対してロケータが開きます。



複数の表示ウィンドウを表示している場合、各表示ウィンドウ毎に現在の表示範囲を示すボックスが1つずつ表示されます。青（緑）色のボックスは、（カーソルが表示ウィンドウにある時は）どの表示ウィンドウにカーソルがあるかや、カーソルがロケータ上にある場合はどの表示ウィンドウの範囲や位置を変更できるかを示しています。

ロケータの中のボックスは青（または緑）か赤紫色で表示されます。青（緑）色はボックスがアクティブであることを示しています。カーソルが表示キャンバス上にあるか、カーソルがロケータ上にあつてボックスに近い場合にアクティブになります。アクティブなボックスはサイズや位置を変えられます。

別ウィンドウに表示されるロケータの上部にあるボタンは、表示をリフレッシュしたり、背景色を設定したり、ロケータの全てのレイヤを非表示にしたり（レイヤ数が多い時、簡単に全レイヤを非表示にすることができます）、ロケータとメインの表示ウィンドウ間にカーソル位置を表示することができます。

